

「愛」 ～目指す生徒像～

H 2 9 . 4 . 2 4

入学式でも、式辞として「愛」について述べましたが、ここで再度「目指す生徒像」を確認させてください。

1 愛とは

「愛」とは、心を満たす特別な感情です。人やものに特別ないたわりと優しさで接することです。その人やものが自分にとって、とても大切だからそうするのです。その思いが、「生きる力」をつけるための「学び」ではもっとも大切となります。そこで、そこで、『愛』そのものを教育指針とし、「他人を愛し、自分を愛し、故郷を愛す」を教育目標としました。その教育目標のもと目指す子ども像には、「係わる・高める・夢見る」を加えました。

2 「他人・自分・故郷」を愛する

(1) 「他人を愛し、係わる生徒」

「他人を愛する」ということは、相手の身になって考え、感じていることにいたわりを示すことです。微笑みや感じよい会話、思いやりのある行動によってそれを表現することができます。また、分かち合うことは愛情を示すひとつの方法です。自分の持っているもの、時間などを相手に分かち合うことも愛情表現です。そして、「他人を愛する」ということは自分がどのように接して欲しいかと考え、それと同じように人に接することです。そこでは、勇気を持って仲間と積極的に係わろうとすることで、人間関係能力が育成されていくのです。

(2) 「自分を愛し、高める生徒」

「自分を愛する」ということは、自分をみつめ、自分をよく知るということです。日々の生活の中で、成長している自分を見つけることです。そこでは、自分の元気なところとからだのバランスをさらに高めていくことで、自己管理能力が育成されるのです。また、「自分を愛する」ということは、自分の秘めている可能性や自分が無限大に持っている可能性に気づくことです。そこでは、自分で根気よく学び方や考え方を身につけ、その活用力を高めながらよりよく課題を解決していくことで、課題解決能力が育成されていくのです。

(3) 「故郷を愛し、夢見る生徒」

「故郷を愛する」ということは、自分の周囲の環境に関心を持つということです。自分を育ててくれた故郷が、どのような環境なのか探求してみるのです。そして、決して自分一人では生きてこれなかったことを知るのです。その故郷に恩送りをするという形をとるには、自分が将来何ができるのかを考えるのです。自分の夢や希望を明らかにして、生き方を考えていくことです。そこでは、憧れる自分のイメージを持ちながら夢見ていくことで、将来設計能力が育成されていくのです。

3 愛は広がる

自分が周りから愛されていると感じたら、幸せになり感謝の心を抱きます。自分が周りに愛情を示すと、周りの人も幸せを感じ感謝します。そして、みんながより優しく、より親切になります。そうして、愛は広がっていくのです。まずは、学校が愛情いっぱい、笑顔いっぱいになれる環境づくりを目指していきたいものです。それが、やがて家庭に、さらに故郷にも広がると期待できるのです。

